

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ぬくもり、やさしさ、安心 そして地域とのふれあい」を理念として掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員参加のミーティングにて再確認し、実践している。特に新規職員には機会を見て施設長より運営理念を話している。		理念として掲げ掲げるだけでなく、日常の当たり前のケアとしてこれからも努力していきたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	各ユニットの玄関に、「ぬくもり、やさしさ、安心 そして地域とのふれあい」を大きく掲示し、家族・来訪者などに広く見ていただき、重要事項説明書にも明記している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩時や近所への買い物の時に、必ず笑顔で挨拶をするようにしている。		近所の高齢者が気軽にホームに立ち寄って、昔なじみの利用者とお互いの近況報告をし合ったり、近隣の農家の方が、沢山の野菜や果物をおすそ分けに来てくださる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(最寄の小学校の運動会や校区内の盆踊り等)には可能な限り参加している。		今年は近所の小学生の親睦訪問に先駆け、まず職員数人が小学校に訪問し、前回の親睦会の反省点と今回の親睦会でのレクなどの質問に出来る限りお答えし、認知症に対する理解を目指した。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議時に、地域の在宅高齢者の方々の現状や意見・要望を伺い、意見交換をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の外部評価の前のミーティングでは、評価の意義を話し合い、自己評価を各ユニットごとに作成。また、評価後には評価指摘された箇所を再度ミーティングにかけ、改善に努めている。		外部評価の意義を職員共通で認識し、改善・検討箇所を今後のケアに活用したい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に地域の老人会長・区長・役場の職員・民生委員・利用者の家族代表をメンバーに運営推進会議を開催。グループホームと、併設されている小規模多機能ホール 二つの事業報告や、地域の方や入所者の家族からの要望や意見を伺うようにしている。		運営推進会議の家族代表の方のお力添えで、地域の盆踊りを夕方一番にしていた。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が開催する講演会や研修に参加し、資料や意見を残して全職員に申し送りするよう努めている。また、町の健康フェスタに参加し、展示コーナーでの展示物の掲示・介護等の相談を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加し、資料を整備している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修等に参加し、さまざまな虐待について話し合っている。また、虐待を行う心理についても知識を深め、職員のストレスケアの研修にも参加している。		新入職者にも近日中に勉強会等の機会を作り、虐待ゼロを続けていきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に利用者の見学や職員の訪問等の機会を設け、直接質問や疑問にお答えするようにしている。また、本契約前に契約書綴りをお渡しし、事前にゆっくり目を通して納得されてから、契約を交わすようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が利用者の希望やニーズに気づいた時点で、早急にユニット毎の、場合によっては合同ミーティングにて解決に向けての検討を行うようにしている。		不満や苦情を表すのが困難な認知症の利用者には、なじみのスタッフが寄り添って、可能な限り要望を汲み取るようにしている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1度は必ず家族の方に面会に来ていただき、御本人の近況報告・預り金の利用状況を報告している。		日常的な報告や小さな変化などをお伝えし、家族との信頼関係をより深めるよう心がけている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、利用者の家族からの意見や要望を伺い、申し送りノートに記載したりミーティングにかけるとして、全職員で検討を行うようにしている。		玄関ホールに御意見箱を設置し、直接には言いづらいどんな些細な苦情や不満でも反映・活用できるように努めている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに併せて、日々の勤務時の会話などで、意見や提案を協議している。		普段から職員と顔を合わせるようにし、職員の意見や提案を出しやすくしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	重度になる利用者のADLや生活パターンに合わせて、適宜、職員の勤務時間を各ユニット毎に検討している。		事前に把握出来ている利用者の通院やホームの行事の日には、出来る限りスタッフを多く配置している。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置転換後は、機会を見て以前のユニットに顔を出し、馴染みの利用者へ声掛けをして、不安感や寂寥感を与えないよう心がけている。		職員の配置転換後は、機会を見て以前のユニットに顔を出し、馴染みの利用者へ声掛けをして、不安感や寂寥感を与えないよう心がけている。
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているように努めている	年齢や性別による職員の採用・募集基準を実施していない。職員の配置の際も本人の希望を考慮したうえ、活き活きと仕事が出来よう考慮している。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表及び管理者は、カンファレンス開催時に利用者の個々のケアプランの見直しとともに人権についての理解浸透に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が段階に応じた研修を受けられるように支援している。今年度は併設の小規模多機能施設の職員を社内研修として受け入れ、お互いのケアの向上と親睦交流を目指した。また、社内外研修結果を職場に活かせるように研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の健康セミナー等で同業者と交流する機会があり、その際各事業所の取り組みや工夫などを意見交換している。		他のグループホームの職員と交流を持てる勉強会など設けていきたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	出勤時は毎日一度は必ず職員と挨拶を交わすようにし、直接言葉を交わすことで職員の疲労やストレスの把握に努めている。また、他のユニットや併設している小規模多機能ホームの職員と、年に数回納涼会や忘年会を行い、職員同士の親睦を深め、気分転換を図っている。		勤務時間中にも休憩を取り、気分転換が出来るように促したり、職員同士の人間関係を把握して、適切な助言や人事の見直しに努めている。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が出勤時は必ずユニットに顔を出し、職員の勤務の現状や努力を把握し、研修の参加や資格取得に向けた支援を行っている。		職員の中から、毎年数名が介護福祉士の資格取得に取り組んでいる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面会や見学の時に本人が直面している問題や希望・質問を伺うようにしている。		要望や不安をうまく表出できない方や、生活歴や職歴をあまり語りたがらない利用者や家族に対し、まずは信頼関係を構築する為に時間をかけて安心感を持っていただけるように接していきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面会や見学の時に、家族等が直面している問題や要望を伺うようにしている。		要望や不安をうまく表出できない方や、生活歴や職歴をあまり語りたがらない利用者や家族に対し、まずは信頼関係を構築する為に時間をかけて安心感を持っていただけるように接していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族等を取り巻く問題を一緒に検討し、他のサービス利用を含めての一番の支援に努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族等に事前の見学や面会のうえでサービスを開始して、今まで使用していた小物や家具を持ち込んでいただき、他の利用者との相性を考慮した席次や、場合によっては職員を介してのコミュニケーションを図り、徐々に馴染んでいただけるように努めている。		家族の協力を得て利用屋の生活歴や職歴等を把握し、職員が他の利用者・場の雰囲気に馴染めるように努力している。
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日と一緒に生活していく中で、家族に近い信頼関係を築いている。利用者との会話や生活歴の中から生き甲斐や苦しみや悲しみを把握し、利用者一人ひとりの笑顔に支えられ、ともに生活し支えあう関係作りを努めている。		園芸や書道・いけばな・料理等、それぞれが得意とするものを機会があるときに教わりながら一緒に楽しんでいる。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時、お茶等をお出ししながら本人の体調や金銭報告に併せて、生活の中のエピソードや何気ない本人の発言など、日常の喜怒哀楽を共有していただいている。		利用者から家族へ、家族から利用者へ向けた、日頃の想い・気持ちを、これからも温かい言葉で架け橋にしていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の現状や思いを考慮しつつ、本人と家族の絆を大切に支援できるよう努めている。		利用者から家族へ、家族から利用者へ向けた、日頃の想い・気持ちを、これからも温かい言葉で架け橋にしていきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を聴き、馴染みの店や知人との交流に努めている。		旧知の友への電話や手紙などの支援を現在行っている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性や個性を考慮し、食事の席を決めたり、職員が個別コミュニケーションをとり調整役をすることで、みんなが楽しく生活を送れるように支援している。		職員の外出の際は、出来る限り交代でその日の体調に加え相性のいい利用者を、2人づつほど同伴して行く様にしている。仲の良い利用者同士が楽しい時間を持ち、とても喜ばれている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調不良などで利用者が入院された時には、病状を家族や病院に確認したり、職員が出来る限り面会に行くなどして、顔なじみの関係の維持に努めている。		家族に季節の便りを出したり次の入所施設に面会に行っており、それまでの関係を断ち切らないようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と密にコミュニケーションを図り、言動や表情など個々の意思や要望を傾聴し、的確に把握するようにしている。	入所して徐々にわかる要望や生活歴などの情報も有るので、全職員にそれを伝達するように心がけている。本人からの情報が困難な時は、家族からの意向や生活歴等の情報の把握に努めている。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴や既往歴、生活のリズムの把握に努めている。	入所して徐々にわかる要望や生活歴などの情報も有るので、全職員にそれを伝達するように心がけている。本人からの情報が困難な時は、家族からの意向や生活歴等の情報の把握に努めている。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活パターンや趣味・嗜好・個性を的確に把握し、それを活かしたケアの提供を目指している。	毎日の出来事や体調は職員内申し送りを行ったうえで必ず記録に残し、月に一度のミーティングにて全職員で再確認している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行い、利用者一人ひとりについて話し合いをしている。	それまでリサーチした本人や家族の意向や要望、医療面からの意見、ホームでの生活の細かいケアの見直し等を検討している。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングにて個々の心身の変化に合わせたケアの見直しを行っている。また、現状に急変が見られる時は、早急に家族・主治医に相談し、迅速に新たなケアプランの作成を行っている。	それまでリサーチした本人や家族の意向や要望、医療面からの意見、ホームでの生活の細かいケアの見直し等を検討している。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日常を、一時間毎にケース記録に記入。また、ユニット毎の業務日誌や入浴・排便・バイタル・食事、水分摂取量の記入を実施し、スタッフ同士の情報の共有やケアの見直しに活用している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望や状況に応じて、外出や通院先の見直し、変更などを実施している。		職員の業務の都合ではなく、利用者の急変や希望・要望に臨機応変に応えられるように努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公共の図書館の利用を支援したり、年に数回、地元の小学生との交流会にて親睦を深めている。また、一日数回地元警察の協力を得て巡回が行われている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者と連携を取り、本人の必要性和希望に応じて協力体制をとるように努めている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターでの研修に参加し、地域で支える認知症ケアの現状を、地域の同業者と共に確認した。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族等の希望を伺いながら、本人の健康維持を支援できるようにかかりつけの病院での受診を実施している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい専門医を尋ね、職員が相談したり、受診や治療を受けられるよう努めている。		専門医の協力を得て、電話にて医師が利用者と話をして、認知症からくる不安が軽減した。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	外来受診や往診の際、なじみの看護師の方たちに日頃の健康管理等を相談したり、体調が急変した際の受診の見極めを電話にて相談している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	体調不良などで利用者が入院された時には、病状を家族や病院に確認したり、職員が出来る限り面会に行くなどして、顔なじみの関係の維持に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護の重度化した利用者については、早期に本人や家族・関係医療機関等で話し合い、利用者や家族が安心してケアを受けられるように今後の方針の統一に努めている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向に併せて関係医療機関と相談し、急変時にはすぐに対応するよう密に連携を図っている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の生活の場でも今までの暮らしの継続が行われるように、プライバシーに配慮しつつ、これまでの生活のリズムや問題点、趣味や嗜好に対する支援のプラン等の情報を提供している。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を遵守するよう、利用者の情報の管理には配慮している。公共の展示会などの参加での利用者の写真を掲示する際は、事前に家族から許可を得ている。		基本的に利用者に対し、親身になって尊厳を守るケアを心がけている。又、利用者個人の記録簿は、収納棚に目隠しのカーテンを着け、家族以外の見学者や業者の目に触れないようにしている。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の挨拶や毎食の配膳の際、利用者一人ひとりに対して声をかけ、その時の表情や言動から利用者の希望や意思を汲み取るようにし、本人と相談しながら共に生活を送れるように支援をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急遽外出や入浴を希望されたり、場合によってはゆっくりと休息して過ごしたいなどの個々の要望には、可能な限り支援するようにしている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意見を聞き、本人の望むように努めている。愛用の化粧品を購入や、馴染みの美容室への外出を支援している。		自分でおしゃれの困難な人は、その方にあった明るめで清潔感のある装いを支援している。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自主性を重んじ、台拭きや箸並べ等、無理なく出来ることを職員と一緒にする様努めている。		入居者の嚥下能力や好みに合わせた食事を提供している。入居者と職員が同じ食卓を囲んで、同じ食事を摂り、見守りながら楽しい食事を心がけている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、タバコやお酒の提供は行っていないが、飲食物や調味料、料理方法等、個々の嗜好や健康上の制限に配慮し提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、適切な時間に適切なケアでのトイレ誘導・介助を行う。また、利用者に羞恥心を抱かせないような声掛けを心がける。		トイレに恐怖心を抱いたり、尿意・便意をうまく表出できない方には、無理強いせず、ゆっくりとした誘導を心がけている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や希望に応じて、週2～3回は入浴を支援している。		仲の良い利用者同士で入浴していただいたり、入浴剤を使用し、快適で心地よい入浴を提供している。また、拒否の激しい方は、家族からの声掛けやゆったりとした声掛け等にて無理強いをせずに気持ちよく入浴できる支援に努めている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に応じ、静養していただいたり夜間照明などを工夫している。		不眠の傾向がある方は、家族・主治医と相談し、日中の活動の支援と併せての眠剤の使用など、その方に合ったケアを実施している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じ、花見などのドライブや、近所への買い物などを支援している。		体を動かすのを好まれる方は、自由に中庭を歩くのを日課にしている。また、俳句を嗜んだり好きなTVドラマを見たり、個々の余暇の過ごし方を支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は、自己にて管理していただき、他の方はホームにて預かり、必要なときはいつでもお出しするようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候に合わせてホーム周辺と一緒に散歩したり、買い物なども可能なときは利用者と共にいる。		ほぼ日課となっている散歩は、天候や四季に合わせて、夏は夕食後、冬は午後三時ごろに行うようにしている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の願いや思いが出来るだけ実現できるよう、本人と家族、職員が相談し、可能な限り支援に努めている。		利用者全体で少し離れたところに海を見にドライブしたり、おにぎりをもって花を見にピクニックに出掛けたりと、外出の機会を持つようにしている。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族や知人への電話や手紙による交流を支援している。葉書や切手は場合によっては職員が購入し、交流の支援をしている。また、知人からの電話や手紙を本人につなぎ、今まで通りの社会生活の支援に努めている。		帰宅要求や電話要求が多い利用者は、家族の協力を得て時々電話をかけ、家族の声を聞かせていただいている。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的に面会時間は設けておらず、いつでも気軽に訪問していただけるようにしている。また、ゆっくりと過ごしていただけるよう、リビングや居室にて利用者とお茶やお菓子をお出ししている。		面会に来た家族や知人と、希望によっては居室や近くの食事処と一緒に食事をしていただいたり、居室に泊まられることもある。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアやカンファレンスで、全職員が身体拘束から来る身体的・精神的弊害について話し合う機会を持ち、高齢者虐待と併せて理解浸透に努めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放し、見守りで外出の察知をしている。夜は防犯の為、夜勤者によって遅出の勤務終了時間に(20:00)施錠している。		施錠が身体拘束につながることを認識し、鍵をかけての介護の弊害を日頃から職員で話し合っている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1人で中庭などを自由に歩くのを好まれる方は、時々声掛けや見守りにて所在確認をしている。居室で大半を過ごされる利用者には、時々お茶を持って訪室し少し話をするなど、様子確認を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤などは誤飲などの危険性から利用者の眼の触れないところへ収納しているが、一部の利用者が手洗い洗剤を使用しており、一概に全部を排除することは行っていない。また、希望の方には裁縫道具を貸し出したりしている。		台所での包丁の管理・取り扱いには十分に注意をする。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止の為、利用者の要望や使い勝手を考慮した場所に手摺を設置している。また、事故報告書・ヒヤリハット報告書に記録し、今後の危機管理に活用している。		新入職者にも近日中に事故防止や危機管理についての勉強会等の機会を設けたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けがや病状悪化が発生した時は、直ちにしかるべき処置をとるようにしている。事務所には応急手当のマニュアルを置いており、いつでも見られるようにしている。		緊急状態判断にて一旦緊急対応のち、上司に指示を仰ぐようにしている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急事態が発生したときは、避難経路及び避難場所を各ユニットに掲示・確認している。		今年度の避難訓練を近々行う予定である。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に家族等に利用者の日々の生活を報告していく上で、今後の予想しうるリスクについても併せて報告・相談しておく。		家族や本人の希望と、本人の近況を検討してリスク対応策を話し合っている。
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定や食欲・排泄パターンなど体調の変化に気を配り、異変があるときは速やかに対応している。		体調が悪い時は、かかりつけに電話にて受診の必要性の相談をしている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量に変更があったときは、必ず全職員が把握できるように薬ケースに最新の処方箋を入れ、且つ、申し送りノートに細かく記載するようにしている。		新入職者にも近日中に誤訳の危険性や薬の効能・管理についての勉強会等の機会を設けたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便パターン一ヶ月の表で確認し、個々に適した支援を行う。水分の摂取を促したり、排便時に便座に腰掛けて腹圧をかけ、マッサージを施す等、出来る限り自然排便が出来るように努めている。		場合によっては医師と相談し、緩下剤の一時的な使用を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	嚥下不良の方は特に、介助にて毎食後口腔内に食物の残滓が無いか確認している。		食後休息をとる利用者もいるので、食後はすぐに口腔ケア(義歯の洗浄・場合によっては預かり・嗽等)を実施している。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事・水分の摂取量をそれぞれチェックし、記録している。		カロリー計算は具体的な数値の算出までは行っていないが、利用者の持病からの摂取制限などは、守るようにしている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	まず職員が媒体とならないよう、健康管理と手洗い励行に努めている。利用者も病院受診等の外出後は必ず手洗いを促し、外部からの感染防止にも配慮している。		家族や主治医の同意の下、毎年早いうちにインフルエンザの予防接種を実施している。(利用者・職員)
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用具の清潔衛生には特に注意を払い、包丁・まな板・布巾は毎晩消毒を行っている。また、食材の鮮度に配慮し、賞味期限を守り、出来るだけ新鮮なうちに調理・提供するように努めている。		食中毒シーズンには、生ものの取り扱いに注意する。
82 (1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に玄関を開放し、家族友人等の来訪が自由に行えるようにし、花や絵葉書や利用者が作った陶器の置物など、下駄箱の上に飾っている。ユニットの玄関には腰掛けてゆっくり靴の着脱が出来るように椅子を置いている。		プライバシーに配慮し、事前に了解を得た利用者の日々の暮らしの風景写真を下駄箱上のコルクボードに貼っている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感がある正月飾りやクリスマスツリー・手作りの布製のカレンダー等を飾り、トイレや居室等の換気・消臭対策も行っている。台所カウンターには金魚を飼い、リビングから見えるウッドデッキからは、利用者が大事に手入れしている鉢植えの花々が眺められる。		利用者の馴染みの懐メロや童謡のCDをかけて、心地よい空間作りを目指している。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには三人がけのソファや膝の高さで腰掛けられる畳スペースを設え、利用者の好みで活用している。また、テレビ観賞は、出来るだけ個々の好みのスタイルで楽しめる様、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた家具や小物を、本人や家族と相談しながらホームでの生活に活かして、その人らしい生活支援に努めている。		家族の写真や手紙や似顔絵を飾ったり、出来る限り居心地のいい「その人の居場所」作りを目指している。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全空間に24時間換気システムを取り入れている。リビングには気温・湿度計を置き、加湿器や窓を開けての換気でも空調管理を行っている。		場合によっては床暖房を使用し、利用者の体調に影響が無いよう配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮して、居室や廊下、リビングに手摺を設置している。また個々の残存機能に応じて介護ベッドの利用や利用者の使いやすい手押し車など、利用者の活動を高めるよう配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の名前がわかる利用者には、利用者の目の高さで居室の前に名札を掲示し、他利用者の居室へ間違っ入らないようにしている。		利用者の入浴中は、不用意に他の利用者や入浴介助以外の職員が入らないように、脱衣所ドアに「使用中」と掲示している。
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候のいい日は、中庭を望むウッドデッキに椅子を出し、日向ぼっこをしている。利用者が大事に育てている鉢植えの季節の花々をウッドデッキの飾り棚に載せ、リビングから眺められるようにしている。		今年はクリスマスシーズンに向けて、ウッドデッキの改装とイルミネーションの飾り付けを計画している。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

広々とした中庭を望みながら、ゆっくりとした時間の中、毎日の生活を送っていただいています。シンボルであるかえでの大木は、春には新緑、秋には紅葉と、四季折々の姿を楽しむことができます。入所者の皆様の昔なじみの歌を大きな模造紙にわかりやすく書き、職員も一緒に歌ったり踊ったりしています。

かえでの理念は「こころ」です。  
入所者一人ひとりの笑顔が職員の元気の源です。  
かえでを支えてくださる入所者様・御家族様・地域の皆様に、おもてなしの「こころ」で接し、どこにでもある家庭の雰囲気でのケアを目指して行きたいと思えます。